

# 平成18年度 伊丹市行政評価 ～施策評価編～

施策コード	1325	施策名	地域医療体制の整備促進と救急医療体制の円滑化
-------	------	-----	------------------------

「これから5年間のまちづくりプラン」における位置付け	視 点	項 目
	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現	きめ細かな地域福祉の推進

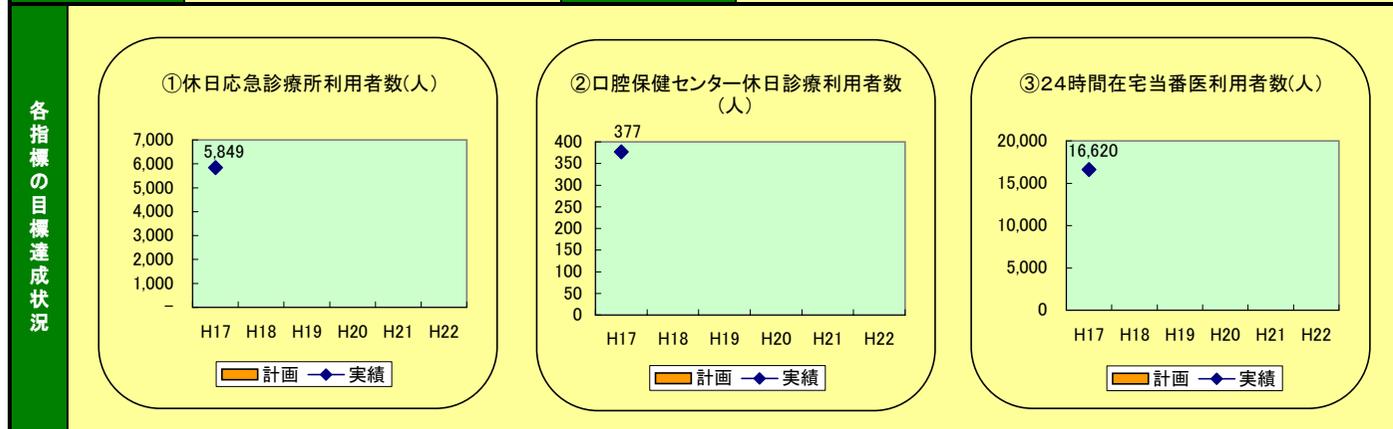
評価担当部局名	健康福祉部	関連部局	-	事業費合計(百万円)	H17(決算) 101.4	H18(予算) 119.9
---------	-------	------	---	------------	------------------	------------------

目指すべき目標・状態	救急医療体制等を整備し、市民が安全で安心して暮らせるようにする。
------------	----------------------------------

施策を取り巻く環境	夜間、休日の医療体制の整備については、市民のニーズが非常に高い。
-----------	----------------------------------

成果を測定する指標 <small>(上げた方が良い指標の場合「↑」、下げた方が良い指標の場合「↓」を指標名の右側に記載。H22年度計画値欄は、それ以前に終期を迎えるものはその年度の計画値。)</small>	指標名(単位)	算式等	現状(H17年度)	H18年度		H22年度計画値	計画達成率(%)
				計画値	実績値		
①	休日応急診療所利用者数(人)	↑	5,849	-	-	-	-
②	口腔保健センター休日診療利用者数(人)	↑	377	-	-	-	-
③	24時間在宅当番医利用者数(人)	↑	16,620	-	-	-	-

評価結果	19年度から実施します。	評価の判断理由	施策全体の評価については、今年度設定した施策目標・成果指標の達成状況などを実績に基づき総合的に判断して行うこととなります。今年度は、評価実施初年度でそうした実績に基づく評価ができないため、来年度から評価を実施することとしています。
------	--------------	---------	---



## 実施している事務事業と評価結果

No.	事務事業名				評価結果
	活動指標(単位)	H17計画値	H17実績値	H18計画値	
①	<b>自動体外式除細動器(AED)整備事業</b>				C
	整備施設数(件)	18	-	59	
②	<b>准看護高等専修学校運営補助事業</b>				B
	生徒数(人)	100	96	100	
③	<b>24時間在宅待機当番制運営補助事業</b>				A
	診療日(日)	365	365	365	
④	<b>休日応急歯科診療補助事業</b>				A
	受診者数(人)	350	377	350	
⑤	<b>休日応急診療所運営事業</b>				A
	利用者数(人)	4,000	5,849	6,000	
⑥	<b>在宅寝たきり者等歯科治療事業</b>				B
	利用者数(人)	50	36	40	
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
⑪					
⑫					
⑬					
⑭					
⑮					

※事務事業名に【新規】の表記がある事業はH18年度開始事業、【未実施】の表記がある事業はH19年度以降に開始予定の事業です。

# 平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。  
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	132501		担当部局・課	健康福祉部 健康福祉課				
事務事業名	自動体外式除細動器（AED）整備事業							
事業内容	心肺停止患者に電気ショックを与え、心臓のリズムを正常化させるための機器である自動体外式除細動器（AED）を市内公共施設（体育施設、文化施設等、教育施設、庁舎他）に配備するとともに消防局と連携しながらより多くの職員・市民がAEDの使用ができるよう救命講習会を開催する。			事業開始(予定)年度	C			
				平成17年度				
				事業終了(予定)年度	—			
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現					
		項目	きめ細かな地域福祉の推進					
		施策	地域医療体制の整備促進と救急医療体制の円滑化					
⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。								
事業の目的	急病・事故などによる心肺停止者を救急病院に搬送するまでの期間の対応は生死を分ける重要な数分間である。AEDによる電気ショックは、心肺停止患者のなかでも、特に突然死の原因となる心室細動を取り除くための最も有効な方法とされている。平成16年7月1日から非医療従事者でも講習会を受けたのであればAEDの使用が認められたことから、AEDを市内公共施設に配備し、緊急に備えることにより安全・安心なまちづくりを推進することを目的とする。		予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 衛生費 (項) 保健衛生費 (事項) 保健衛生事業補助金等 (目) 保健衛生総務費				
事業費等の概算	平成17年度(決算)			平成18年度(予算)				
	事業費	財源内訳		事業費	財源内訳			
		国・県補助金等	—		国・県補助金等	—		
		市債	—		市債	—		
		その他(使用料等)	—		その他(使用料等)	7,812千円		
	一般財源(市税等)	—	一般財源(市税等)	—				
投入人員	0.20人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)	投入人員	0.20人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)			
人件費	1,713千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。	人件費	1,713千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。			
経費合計	1,713千円		経費合計	9,525千円				
活動指標	指標名(単位)	整備施設数(件)		計画と実績	年度	H17年度	H18年度	
	意味・算式等	—			区分	計画値	18	59
					実績値	—	—	

評価結果	C
	上位施策に対する貢献度はやや低く、より効率的・効果的な事業のあり方について検討が必要。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

# 平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。  
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	132502							
事務事業名	准看護高等専修学校運営補助事業	担当部局・課 健康福祉部 健康福祉課						
事業内容	准看護高等専修学校を運営する伊丹市医師会に対する運営費補助							
	事業開始(予定)年度 昭和47年度							
	事業終了(予定)年度 —							
この事業の上位施策	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現						
	項目	きめ細かな地域福祉の推進						
	施策	地域医療体制の整備促進と救急医療体制の円滑化						
⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組みべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。								
事業の目的	伊丹市医師会が運営する准看護高等専修学校の卒業生が市内医療機関の看護師不足による医療体制の脆弱化を防ぎ、安定した医療の供給の一翼をになっている。このため、准看護学校の運営経費の一部を補助し、安定した学校運営に資することにより医療従事職員の輩出を支援し、市民の医療不安を解消するとともに、医療ニーズに的確に対応する医療体制の確立に寄与する。	<b>予算費目</b> (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。) (款) 衛生費 (項) 保健衛生費 (事項) 保健衛生事業補助金等 (目) 保健衛生総務費						
事業費等の概算	平成17年度(決算)		平成18年度(予算)					
	事業費	財源内訳		財源内訳				
		5,500千円	国・県補助金等	—	国・県補助金等	—		
			市債	—	市債	—		
			その他(使用料等)	—	その他(使用料等)	—		
	一般財源(市税等)		5,500千円	一般財源(市税等)	5,500千円			
	投入人員	0.05人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		投入人員	0.05人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)	
人件費	428千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。		人件費	428千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。		
経費合計	5,928千円		経費合計	5,928千円				
活動指標	指標名(単位)	生徒数(人)		計画と実績	年度	H17年度	H18年度	
	意味・算式等	1学年定員50名 修業年限2年			区分	計画値	100	100
					実績値	96		

評価結果	B
	上位施策に対する貢献度はやや高く、効率性を点検した上で継続する。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

# 平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。  
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	132503		担当部局・課	健康福祉部 健康福祉課					
事務事業名	24時間在宅待機当番制運営補助事業			事業開始(予定)年度	A				
事業内容	24時間在宅待機当番制により、救急患者を受け入れている医療機関に対し、医師会を通じて補助金を交付			平成6年度	上位施策に対する貢献度は高く、現行のまま継続する。				
				事業終了(予定)年度					
				—					
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現						
		項目	きめ細かな地域福祉の推進						
		施策	地域医療体制の整備促進と救急医療体制の円滑化						
⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。									
事業の目的	市内医療機関が当番制により24時間患者を受け入れ、診察を行う体制を維持し、安全・安心感の持てる市民生活を推進する			予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)	(款) 衛生費 (項) 保健衛生費 (事項) 保健衛生事業補助金等 (目) 保健衛生総務費				
事業費等の概算	平成17年度(決算)			平成18年度(予算)					
	事業費	12,000千円	財源内訳			事業費	12,000千円		
			国・県補助金等		—				
			市債		—				
			その他(使用料等)		—				
	一般財源(市税等)		12,000千円		一般財源(市税等)		12,000千円		
投入人員	0.02人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)			投入人員	0.10人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		
人件費	171千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。			人件費	857千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。		
経費合計	12,171千円			経費合計	12,857千円				
活動指標	指標名(単位)	診療日(日)				計画と実績	年度	H17年度	H18年度
	意味・算式等	市内医療機関により、救急患者の受け入れが実施できた日数					区分		
							計画値	365	365
					実績値	365			

評価結果	A
	上位施策に対する貢献度は高く、現行のまま継続する。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

# 平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。  
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	132504							
事務事業名	休日応急歯科診療補助事業	担当部局・課 健康福祉部 健康福祉課						
事業内容	伊丹市歯科医師会が実施する休日歯科診療業務の管理運営に必要な経費が当該業務に係る診療報酬その他の収入金の合計額を超過する場合には、予算の範囲内において、当該超過額を限度として補助金を交付							
	事業開始(予定)年度	昭和55年度						
	事業終了(予定)年度	—						
この事業の上位施策	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現						
	項目	きめ細かな地域福祉の推進						
	施策	地域医療体制の整備促進と救急医療体制の円滑化						
⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。								
事業の目的	伊丹市歯科医師会に事業補助することにより、休日等における歯科の急病者に対し、応急的な歯科医療を提供し、市民の歯科医療不安の解消を図れるような診療体制を維持することを目的とする。(日曜・祝日・年末年始に伊丹市口腔保健センターにて、午前9時～正午まで歯科の急病者に対し、応急的な歯科医療を提供)	<b>予算費目</b> (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。) (款) 衛生費 (項) 保健衛生費 (事項) 保健衛生事業補助金等 (目) 保健衛生総務費						
事業費等の概算	平成17年度(決算)		平成18年度(予算)					
	事業費	財源内訳		事業費	財源内訳			
		2,195千円	国・県補助金等		—	2,800千円	国・県補助金等	—
			市債		—		市債	—
			その他(使用料等)		—		その他(使用料等)	—
	一般財源(市税等)		2,195千円	一般財源(市税等)	2,800千円			
投入人員	0.02人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)	投入人員	0.10人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)			
人件費	171千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。	人件費	857千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。			
経費合計	2,366千円		経費合計	3,657千円				
活動指標	指標名(単位)	受診者数(人)		計画と実績	年度	H17年度	H18年度	
	意味・算式等				区分			
					計画値	350	350	
		実績値	377					

評価結果	A
	上位施策に対する貢献度は高く、現行のまま継続する。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

# 平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。  
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	132505									
事務事業名	休日応急診療所運営事業	担当部局・課 健康福祉部 健康福祉課								
事業内容	休日に内科・小児科系の応急的な医療を提供する。 診察時間 ○内科・小児科：（土曜）18:00～21:00、（日曜、祝日、振替休日、12/30～1/4、8/13～8/15）9:00～12:00・18:00～21:00 ○小児科：（土曜）14:00～17:00、（日曜、祝日、振替休日、12/30～1/4、8/13～8/15）14:00～17:00									
	事業開始(予定)年度	昭和50年度								
	事業終了(予定)年度	—								
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点 支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現								
		項目 きめ細かな地域福祉の推進								
		施策 地域医療体制の整備促進と救急医療体制の円滑化								
⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。										
事業の目的	休日における内科・小児科系の急病患者に対し救急医療として応急的な医療を提供する。	<b>予算費目</b> （複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。） （款） 衛生費 （項） 保健衛生費 （目） 休日応急診療所運営費 （事項） 休日応急診療所運営経費								
事業費等の概算	平成17年度(決算)		平成18年度(予算)							
	事業費	財源内訳		財源内訳						
		80,375千円	国・県補助金等	—	国・県補助金等	—				
			市債	—	市債	—				
			その他(使用料等)	43,015千円	その他(使用料等)	49,656千円				
	一般財源(市税等)		37,360千円	一般財源(市税等)	40,713千円					
	投入人員	0.21人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		投入人員	0.34人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)			
人件費	1,799千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。		人件費	2,912千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。				
経費合計	82,174千円		経費合計	93,281千円						
活動指標	指標名(単位)	利用者数(人)				計画と実績	年度	H17年度	H18年度	
	意味・算式等	—					区分	計画値	4,000	6,000
							実績値	5,849		

評価結果	A
	上位施策に対する貢献度は高く、現行のまま継続する。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。

# 平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。  
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	132506						
事務事業名	在宅寝たきり者等歯科治療事業	担当部局・課 健康福祉部 健康福祉課					
事業内容	開業歯科医院での治療が困難な方を対象に、口腔保健センターで週1回、治療日を設ける。						
	事業開始(予定)年度	平成17年度					
	事業終了(予定)年度	—					
この事業の上位施策	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現					
	項目	きめ細かな地域福祉の推進					
	施策	地域医療体制の整備促進と救急医療体制の円滑化					
⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。							
事業の目的	在宅療養をしている寝たきり、もしくはそれに準ずる方で、開業歯科医院での治療が困難な方に対する歯科治療を支援することにより、高齢者のQOLを高める。	<b>予算費目</b> (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。) (款) 民生費 (項) 老人福祉費 (事項) 地域福祉対策費 (目) 老人福祉総務費					
事業費等の概算	平成17年度(決算)		平成18年度(予算)				
	事業費	財源内訳		財源内訳			
		1,368千円	国・県補助金等	—	1,408千円	国・県補助金等	—
			市債	—		市債	—
			その他(使用料等)	—		その他(使用料等)	—
	一般財源(市税等)		1,368千円	一般財源(市税等)		1,408千円	
	投入人員	0.03人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)	0.06人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)		
人件費	257千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。	514千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。			
経費合計	1,625千円		1,922千円				
活動指標	指標名(単位)	利用者数(人)		計画と実績	年度	H17年度	H18年度
	意味・算式等	口腔保健センターにおける治療延べ人数			区分		
					計画値	50	40
			実績値	36			

評価結果	B
	上位施策に対する貢献度はやや高く、効率性を点検した上で継続する。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。